

---

# 平安貴族とオレ3

正記貞信

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

平安貴族とオレ3

### 【Zコード】

N4027C

### 【作者名】

正記貞信

### 【あらすじ】

京の図を引っ張りだす。いい加減、「彼」についても、慣れてきた所だ。

本日快晴。風無し、お金無し、湿度有り。

まもなく正午。

日差しは、時間と共に強くなる。

「いつものことだが…暑い。」

団扇変わりに、プリントの束で扇ぐ。

「地球温暖化、てやつかい? まったく。昔は過(の)ぎやすかつただらうな。」

半袖のシャツに、汗が滲む。

研究室で夜を明し、牛丼屋で、遅い朝食を探ってきた所だ。

戻つてすぐに、窓を全開にする。

開け放つた窓からは、風の代りに、ヤマリの声が聞こえる。

「先生は当然のようだ、言ひたゞ、俺には京の配置とか、わからぬ一つでの。」

レポートについて質問にいつた時、さも

「常識」といつた顔で、京における貴族の邸宅の配置について、あれこれ言われた。

残念ながら俺には、さっぱりわからないため、自分で調べるしかない。

本棚の中段にある、大判の事典を引っ張りだし、目的のものをさがす。本棚は背が高いから、よく使つものは、中段に置いてある。

「平安京の図は、じれったかな、と、ふんふんと、他のページに

見とれつつ、暫くして、見つけた。

図は折り畳み式になつていて、広げてみる。

「字がちこせーよ」

老眼のよひ、思わず図を畳から遠ざけてしまふ。

細かな字で、一條とか二条とか、色々ある。

京の図では、よく書かれる通り、碁盤の目のように道が整備されていふ。

よくまあ、こんだけのものを造つたもんだ。

「摺闐家の家はどこだっけ、か。……おお、あつたあつた。」

「いやついた文字の中から、その図を見ついたものを見つけた。

地図を見て右側、左京には、道長・頼通等で摺闐家の邸宅がある。他にも、有力貴族の邸宅が並ぶ。

「こりやす」と。さしづめ、永田町みたいなものか? 詳しここにはよく知らんがね。」

「ながたぢゅう」というものが、どうこう所かわかりませんので、なんとも言えませんが……京の中心区画ですよ。御幸の際にも、この辺りの道を、よく通りますし

「ふーん。」

「」

「声」にも、いい加減、慣れて来る。

いつか読んだ、貴族の日記やその他記録を思い出す。  
そこには、たしかに  
「彼」に言われた通り、『一条を通つた』といつ記述があつた気がする。「お前、結構詳しいのな。」  
素直に感心する俺。

そうでしょう、そうでしょう。なんてつたつて私は…そりや、そ  
んなに偉くはありませんでしたけど…  
明らかに、誇らしげな、嬉しそうな声で、  
「彼」は続ける。

それから暫く、

「彼」の話を聞いて、また、レポートに取組む。

なんて、真面目な大学生なんだろうと、少しだけ、偉ぶつてみる。

少し、風が出てきた。これなら涼しく、快適に勉強できそうだ。

「んんっ」

大きく伸びをして、机に向う。

快調、快調。

なんですか！私の話、殆ど聞流していたくせに！

上機嫌だった

「彼」は、不機嫌になつていた。

(後書き)

後ほど、参考文献とかもあげとかないと、いけないですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4027c/>

---

平安貴族とオレ3

2010年10月17日10時04分発行